



ふれあい通信

「史跡ウオーク」の延期について

お詫びとお願い

誌面をお読み頂いている会員・賛助会員の皆様、平素は協会活動にご協力とご尽力を頂き有難うございます。

一時期、感染拡大が収まりかけて十月からウオークを再開しました。しかしながら、暮からの予想を超える急拡大のため、首都圏を始め、近畿を含む都市圏に「緊急事態宣言」が発令されました。前回に比較し若干規制が緩やかですが、多数が集まるイベント・行事の自粛、飲食店等の営業時間の短縮など不要不急の外出を控えるよう要請がなされました。当協会も事態の推移を慎重に見極めてまいりましたが感染拡大が続いている現状に鑑み、一、二月の史跡ウオークを延期させて頂くこととしました。三月以降のウオークにつきましては、今後の感染状況を見まして、判断したいと思っております。また、二月実施予定の「講演会」につきましては中止します。急な延期・中止で、皆様方には大変ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。以後のウオークにつきまして、諸般の状況を勘案しながらできるだけ早期に実施したいと考えております。先般お知らせしました今後の実施日程も一部変更調整します。史跡ウオークの実施が決定すれば「ふれあい通信」の紙面にてお知らせします。何卒ご理解とご了承の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、年間実施の減数に替わる特別企画を計画する予定です。今後も引き続き協会の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓

会長 山田久男



とうとう近畿三府県にも緊急事態宣言が発令されました。当協会としても多数の高齢者が含まれていることから史跡ウオークなどの開催を延期することとなりました。

彼の国中国では、今回のコロナ禍では比較的に落ち着いたように見えますが、明王朝の神宗皇帝が即位した時代（日本では信長が將軍足利義昭を追放した頃）の四八年の間に二〇数回もの疫病が庶民を苦しめたそうです（加地伸行書から）。

我が国は火山列島に位置し、風光明媚な景勝と引き換えに、震災、風水害、不作に疫病と、先人たちは幾多の困難を乗り越えてきました。

幸い京都の町は、戦争で一部空爆被害が出たものの、多くの史跡が奇跡的に被害を免れて、現在では世界遺産をはじめ、国宝や重要文化財の宝庫となっており、路傍には由緒を示す碑や町名に往時のヒーロー、ヒロインを偲ぶことができる街並みがそこにあります。

東山山麓の植栽は椎などの広葉雑木林ですが、戦後は、炊飯や暖房のため落ち葉まで取られ、土壌養分が不足、松林となったとか。

松は海岸や砂浜などやせた土地でも育ち、松茸などの恵みをもたらすが、落ち葉など腐葉土を取らず養分を溜めると、他の植物に置き換えられるとのことでした。

降り積もる 深雪に耐えて 色変えぬ
松ぞ雄々しき 人もかくあれ

昭和二十一年、終戦後初めての歌会始で、昭和天皇が詠まれた歌だそうです。

この協会の前身『京都幕末ボランティアガイド塾』が発足して今年で二三年目となります。今は雌伏の時でしょうが、明けぬ夜はありません。次の飛躍に向けて準備をしましょう。

編集部



『梅開早春』

チーム雅 細田茂樹

梅の咲き始める季節になりました。

厳しい寒気にもめげず梅の花が咲いて、暖かい春をもたらすのです。

紅梅、白梅、そして蠟梅なども。

梅にも個体差があり、開花する時期には若干のズレがあるものの、ほぼ一斉に開花します。

道元禅師の師である如浄の説法の中に『梅開早春』という言葉があります。

通常であれば「梅、春に開く」と読むのだと思うのですが、如浄は「梅、春を開く」であると教えています。

厳しい寒気にも負けず梅が咲いて春になる。即ち、「梅開早春」とは、梅は「春に開く」

なのか、梅は「春を開く」なのか。

これは、全ては自分の心の持ちようである、と説いているのです。

そして、もうすぐ立春。

旧暦では一年の始まりです。

このあと、雨水、啓蟄、春分、清明、穀雨、と続き、そして立夏までが春だと教えられて

これから

始まる未

知の一年、

全ての人

々にとつ

て佳き年

であるよ

う願いま



JRどこでもドアで種子島の旅

チーム雅 今井 満

山崎駅のパンフレット棚に「どこでもドア」のチラシを見つけた。なんだろうと手に取ると、三日間乗り放題一万八千円とある。

これで種子島に行けると思った。JRで島には行けないだろうと思われるかも知れないが、種子島には鹿児島からのフライトか船しかない。そして伊丹から飛行機を経由すれば5、6万かかる。だから鹿児島まで新幹線後は高速艇にすれば安いと算盤を弾いた。

種子島で見たのは縄文時代の広田遺跡と鉄砲館と島津以久の所縁の古文書等であった。

種子島の西之表港から鉄砲館に直行して珍しい大筒と島の歴史を見たが、三年間島を統治した島津以久の歴史が展示されていない。

島津以久は、垂水を治め最後は佐土原藩主になったが、慶長年間に国替えがあつて種子島を治めていた。その間、種子島氏は知覧に国替えがあつた。島津以久が島の歴史に名前を留めていないのを受付の女性に問うが、御存じなく、目的の一つが不明は残念であつた。

ただ鉄砲館の近く赤尾木城にいたはずで、そこが歩いて満足だと、己に言い聞かせた。

次の日は、縄文時代の人骨が多く埋葬された広田遺跡ミュージアムを訪れた。ボランティアガイドを頼むと、縄文だけでなく島の歴史も詳しく大いに勉強になり、いろんな質問に答えて貰った。最後に島津以久を訊くとご存じで、統治した時期を話すと、種子島の民謡に佐土原が出て、以前から疑問だったのが解消されたと言われ、来た甲斐があつた。あとは定番の種子島宇宙センターを訪れロケット発射場を見学し、旅を終えた。

『くわばら、くわばら』は、地名で現存！

チーム葵 今川博明

今年は丑年なので、菅原道真の年ですね。

そう言えば、雷が鳴ると落ちないように『くわばら、くわばら』とつぶやいたことはないでしょうか？ 今では、知らない人が多いでしょうね。雷や災難よけに人々の間で広まったのが、この『くわばら、くわばら』でした。

昔、道を歩いていると急に雷が鳴ってきて、「うわっ、雷が鳴ってきたわ。あー怖っ、くわばらくわばら」とおばさんが走って逃げていくのを見かけたものです。なぜこのようなおまじないになったのでしょうか？

実は菅原道真が大宰府へ追いやられてしまつてから、京都の町は頻繁に落雷があり、町中に火災が起きました。また災いも起こるようになりました。人々はこの現象を、きつと道真公が恨んで起こしているのだという噂が広まりました。しかし、不思議と桑原（くわばら）の地域だけには雷が落ちなかったのです。そのため人々はこの桑原を唱えてお祈りをすると雷や災難が起こらないと信じ、広まっていきました。

では、この桑原という場所は実在するのでしょうか？ それとも架空の地域なのか？ これがあつたんですね。なんと、京都御所前にある京都地方裁判所の前のバス停あたりです。広さも縦横約一〇メートルほどの面積で存在するのです。もちろん道路上と歩道なので、住んでいる人もいませんが、ここが実在の桑原町なのでした。なぜ今でも残っているのでしょうか？ きつと失くすと再び道真公の怨念が復活、災難が起こると町衆は思ってきたのでしょね。試しにグーグル地図で住所（京都市上京区桑原町）を打てば出てきますよ。（笑）

柳生新陰流（一）

チーム雅 林 敏哉

以前、柳生新陰流について調べたことがありますので、それを紹介させていただきます。

柳生新陰流はドラマや小説で良く取り上げられますので知らない方はないと思いますが、決してフィクションの世界だけに留まるものではありません。この流派に属する人は、現在も国内外に多くおられ、名古屋を中心に東京、大阪等数力所で当主からの直伝という形で稽古が行われ、口伝書の解説も講道として実施されています。

柳生新陰流の大きな特徴は、力で相手を圧倒して斬り込むものではありません。心の

「位」（位とは、構えのことです。新陰流では構えという言葉を使わず、「位」と言っています。）によって、相手の動きを引き出し、その動きに乗じて勝つという活人剣を教えます。心に重きを置いているのです。

そこには心の状態が勝負を決するという考えがあつて、いくら小手先の技術を磨いても、その根底にある心そのものが良い加減では、新陰流剣術を極めることは出来ないという思想に基づいています。

柳生新陰流の歴史は、約四五〇年前の室町時代に遡ります。新陰流を創始した上泉伊勢守藤原秀綱（後の信綱）は、戦国時代末期の

上州（今の群馬県）の人で、幼い頃から兵法や兵術の修行に明け暮れ、若くして刀・槍など当時の代表的な流派に通じていました。中でも大きな影響を受けたのが、常陸国の

鹿島の「陰流」です。伊勢守はそこに独自の工夫を取り入れて「新陰流」を生み出しました。

ある時、五畿内随一といわれた兵法者である大和の柳生但馬守守宗厳（後の石舟斎）は、上洛した上泉伊勢守と勝負して敗れたため、新たに弟子入りを志願して新陰流を究めていきます。石舟斎の偉大さは「素直に負けを認め、プライドを捨てて自分を打ち負かした伊勢守に弟子入りを願ひ出た。」というところにあります。

石舟斎の熱意にほだされた伊勢守は半年間、柳生の地に滞在し、新陰流を伝授しました。その後、太刀で切りかかる相手を無刀で制する技法、「無刀取り」を確立し、伊勢守から流派の印可状を相伝され、新陰流兵法正統第二世に認められました。ここに柳生新陰流の歴史が始まりました。

石舟斎の五男・宗矩が將軍家の兵法指南役となることで、柳生新陰流の名は天下に知られることになりましたが、惜しくも宗矩の子孫において剣術の相伝は絶えてしまっています。

一方、石舟斎の孫の兵庫助利厳は、祖父の下で兵法を修練し、正統第三世の相伝を授けています。兵庫助は尾張徳川家に兵法師範として出仕し、尾張柳生の礎を築きました。その折り、時流に適応した「直立たる身の位」を考案します。これは上段の構えのことで、鎧兜を着用した戦場ではなく、平服での通常の戦闘に有利な技です。こうして兵庫助は、新陰流を大成するに至ります。

これ以降、柳生新陰流は尾張藩に庇護されながら、その正統性を脈々と今日まで受け継いできているのです。（続く）

「歎異抄」

チーム葵 渡邊 武

「歎異抄（たんにしょう）」は、親鸞が説いた仏教書で、親鸞の高弟・唯円が鎌倉後期にまとめたものである。

鴨長明の「方丈記」、「歎異抄」、吉田兼好の「徒然草」は、ほぼ六十年間隔のこの順で世に出ており、「三大古文」ともいわれている。室町期の僧・蓮如は、この「歎異抄」について、「仏縁の浅い人には披見させてはならぬ」と封印した。これは説法を正しく理解されない面があるとの判断で、明治まで一般には読まれることがなかったようである。

仏教修行において僧侶は、食欲、財欲、色欲、名誉欲、睡眠欲の「五欲」を抑えて、励むこととされていた。

このため、僧侶には肉食妻帯が禁じられていたが、親鸞は結婚して、肉をも食し、「墮落坊主」といわれていた。

その親鸞が説いた「歎異抄」は、すんなり理解したい記述もあり、ページを戻して読みなおすことも度々である。

例①「親鸞は、父母の孝養のためとて念仏、一遍にて申したることいまだ候わず。」（親鸞は、亡き父母の追善供養のために、念仏一遍、いまだかつて称えたことはない。）

例②「善人なおもつて往生を遂ぐ、いわんや悪人をや。」（善人は、浄土へ生まれることができる、悪人は、なお更ら往生できる。）

「歎異抄」は、本来、門外不出の秘本であるとの説もあるほどに、うわべだけを讀むと世の常に反し、悪を勧めているようにもとれる。

コロナ禍で、行事に追われることもなく、先ずは本文にふれ、その後に解説を、じっくり読んでいる昨今である。

聖なる山 カイラスでの約束(7)

チーム 彩 矢野 正明



氷結した道、崖から落ちそうになりながら標高五一五〇米の峠を越え、馬車に乗り換えベースキャンプにやってきた。エベレストは快晴で、美しさにしばし見とれていたが、極度の疲労と食欲不振でキャンプ地には泊まらず、すぐに下山した。

最後は国境のヒマラヤ山脈を越え、一カ月にわたる五千四百kmの苦しい四輪駆動のバックパック辺境紀行が終わった。

そして、政情不安を予想していたネパール・カトマンズに入り、翌日、解散となり隊員は次々と、バンコック経由で帰国して行った。私は一人、カトマンズやルクラで一週間を過ごし、デリーに飛んだが、四〇度をはるかに超える暑さにインド旅行は断念した。十キロ少し痩せて帰国した後、病気のN君のことが気になり、しばらく経った七月六日に、I先輩に電話をかけた。

先輩の話によると、N君は病状が安定し、退院して、自宅療養しており、入院時よりも元気である旨を聞き、ホッとす。

スケッチに色付けも出来、彼の為、ドルマ峠で掲げたタルチョの写真を持って、見舞いに行こうと思っている矢先の七夕の日にハガキをもらった。

面白発見

大理石の化石

チーム 彩 矢野 正明

昨年十二月、「三条通の近代建築を巡る」で案内した文化博物館別館（旧日銀京都支店）に立ち寄った際、化石の入った大理石を探したが、残念ながら見つけれなかった。

そこで大丸百貨店にも多数のイタリア製大理石があると聞いていたので出向き、高倉南階段の二階で発見した化石が左の写真である。そこには渦巻き状の殻をもつ「アンモナイト」の断面がよく残っていた。一億年以上たつたもののようで、その他色々の知らない化石が付着し、デザインとして見ても楽しい。ヒマラヤが海底に没していた頃の化石を、チベット人がタダ同様の値段でしつこく売りに来たことを思い出した。買っておくべきだった。疲れていて頭が回らなかった。残念！



お知らせ

★新型コロナウイルスの問題については、京都市では現在二回目の緊急事態宣言が発令中であり、これに対応するため、幹事会や会員の皆様の間で知恵を絞っているところですが、会員間の連絡、意見交換の手段として、はがきや封書は手間と経費がかさみ、一方で安易にミラーリングを開く訳にもいきません。

そこで本協会としてはメールを連絡の基本としたいところですが、皆様の使い勝手についてお尋ねします。

① パソコンや携帯をお使いですか。↓パソコンを使っている スマホを使っているガラケーを使っている どれも使っていない

② (①でパソコン・スマホ・ガラケーを使っているとお答えの方) メールで連絡がつく メールは使っていない

③ (②で、メールで連絡がつくとお答えの方) あなたのメールアドレスを教えてください (頂いたアドレスは本協会の連絡用以外には使用しません) 教えない

以上の問いに、メールで回答いただける方は takumaroya@yahoo.co.jp (澤田編集長) までお願いします。メールでの回答ができない方がある場合は、状況に応じ、別の方法を検討します。

★第三回初めての史跡ガイド研修日の変更

企画・研修 今井 満

ふれあい通信一月号で三月六日・七日の開催をお伝えしましたが、諸般の事情で四月三日・四日に変更します。詳しくは、次回に。